

平成 29 年度第 1 回富津市創生会議 会議録 (要旨)

| | |
|----------------|--|
| 1 会議の名称 | 平成 29 年度第 1 回富津市創生会議 |
| 2 開催日時 | 平成 29 年 8 月 25 日 (金) 午前 9 時 00 分～午前 11 時 50 分 |
| 3 開催場所 | 富津市役所 5 階 503・504 会議室 |
| 4 審議等事項 | 1 総合戦略改定素案について 2 総合戦略の平成 28 年度事業実績について |
| 5 出席者名 | 富津市創生会議委員 (11 名) 稲村 重夫、岩沢 宏幸、神田 ミヤ子、小泉 敏、 坂田 慶子、佐々木 ゆき江、鈴木 裕士、武次 治幸、 永田 武憲、橋村 透、早見 秀一 事務局 (9 名) 市長 高橋 恭市、副市長 小泉 義行、教育長 岡根 茂 総務部長 白石 久雄、総務部参与 池本 幸司、 企画課長 重城 祐、企画課企画係長 田内 友臣、 企画課主任主事 鶴岡 隆樹、企画課主任主事 牧野 圭吾 事業担当課 (61 名) |
| 6 公開又は非公開の別 | 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 |
| 7 非公開の理由 | 富津市情報公開条例第 23 条第 号に該当 (理由) |
| 8 傍聴人数 | 3 人 (定員 20 人) |
| 9 所管課 | 総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223 |
| 10 会議録 (発言の内容) | 別紙のとおり |

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

富津市創生会議 会議録署名人

会議録署名人

平成 29 年度第 1 回富津市創生会議 会議録（要旨）

| 発言者 | 発言内容 |
|------|---|
| 事務局 | <p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 会議の趣旨及び議事進行について 会議の趣旨及び議事進行については、事前配布した資料のとおりである。各資料は、資料 1 から資料 3 が議題（1）総合戦略改定素案について、資料 4 が議題（2）総合戦略の平成 28 年度事業実績についての資料である。 まず、議題（1）の資料について説明する。 資料 1 は、6 月に庁議決定した改定方針である。改定の趣旨としては、「市長公約がまち・ひと・しごと創生を基本としていることから、年少人口減少抑制のため特に重点的に取り組む施策を定める富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略を改定し、市長公約に掲げた施策・事業を着実に実行する。」としている。 改定内容については、市長公約に掲げた施策の追加、年少人口減少抑制のため平成 31 年度までに実施する施策・事業の追加等である。 今後のスケジュール等は資料のとおりである。 資料 2 は、今回の総合戦略改定に係る市の対応方針等をまとめたものである。 資料 3 は、現行総合戦略と改定素案との新旧対照表である。 以上の資料 1 から資料 3 を基に、今回の改訂素案について、意見等をいただきたい。 次に、議題（2）の資料について説明する。資料 4 は、平成 28 年度の決算事業シートである。 昨年度は、事業の評価を総合戦略実行計画書と事業シートにより行ったが、今回は、総合戦略実行計画書と事業シートは、重複している項目が多いこと等の理由により資料 4 で評価を行う。 以上で説明を終了する。</p> |
| 武次会長 | 事務局の説明に対し、質問はあるか。 |
| 委員 | <p>特になし</p> <p>会議録の確定について 会長の指名した委員による承認を採用 会議録署名人は下記のとおり 坂田委員、鈴木委員</p> |

| | |
|--------------|--|
| <p>武次会長</p> | <p>5 議題 議題(1) 総合戦略改定素案について 事務局から説明があったが、本議題の論点は、改定素案として修正又は追加されたものがこれでよいか、新たに追加項目があるかという点である。 また、改定項目以外についても意見等があれば議論をお願いしたい。 それではまず、基本目標1について議論する。</p> |
| <p>早見委員</p> | <p>資料3の9ページ、富津市いきいき百歳体操について、事業内容、目標値の設定根拠を確認したい。</p> |
| <p>介護福祉課</p> | <p>平成29年度施政方針にも掲げているとおり、生涯を通じ、いつまでも住み慣れた地域で、からだも心も元気で、いきいきと暮らし続ける健康長寿は最大の目標としているところであり、富津市の65歳以上人口は16,000人を越え、市民の3人に1人が65歳以上という状況である。 本事業は、昨年度に大堀2区をモデルとして実施し、平成29年度から地域づくりによる介護予防の取組として市内全域に広めるものである。 体操の内容については、実演しながら説明する。 (体操実演) モデル事業の実施効果としては、週1回の体操を3ヶ月実施したところ、筋力の向上等が確認できた。 目標値の設定根拠については、1回あたりの実施人数を10人とし、実施会場、回数の増加を見込み試算している。</p> |
| <p>佐々木委員</p> | <p>新しい施策が14あるようだが、数年前まで財政破綻の話もあったところであり、新たな施策の実施にあたって財政面は大丈夫か。</p> |
| <p>市長</p> | <p>全ての事業について、選択と集中をしながら行政運営する。その中で今回、子育てや健康に注力したところである。これまでの経営改革と同じく、身の丈にあった経営をしていき、新たな施策で財政が悪化することは無い。</p> |
| <p>坂田委員</p> | <p>資料2のNo.1、地域づくりネットワーク会議について、会議内容、メンバー構成について確認したい。</p> |
| <p>市民課</p> | <p>自主的、自発的に公共的事業を行っている方々、いわゆる市民活動団体を集めて会議を開催し連絡調整を行うことを考えている。 地域づくり団体といっても活動分野、内容等様々あるので、こういった方々を集め、連携を深め、単体で動いている事業を繋げることで何か事業ができないかということを考えていきたい。</p> |
| <p>鈴木委員</p> | <p>同事業について、スケジュール等活動予定はどうなっているか。</p> |

| | |
|-------|---|
| 市民課 | 市民活動団体の登録制度の創設等により、活動のアピール等の支援を行い、平成 31 年度開催を計画している。 |
| 橋村委員 | 市民活動災害補償制度とはどういったものか。 |
| 市民課 | ボランティアの保険は今もあるが、市に登録のある団体のもの又は市主催のものしか保険対象にならない。今回考えているのは、地区の行事、小規模団体の活動も対象にするものである。 現行の制度は登録、事前申込が必要であるが、新制度は祭礼準備等の日々の地区の活動でも対応できる。これによって市民活動を盛んにしたい。 |
| 永田委員 | 資料 3 の 11 ページ、自主防災組織設置数の目標値の単位は何か。 区長時代の経験から、自主防災の講演等を行ってもなかなか自主防災組織率は上がらないと認識している。区長から呼びかけてもらうこと等が必要だと思うが、目標達成に向けてどういったことに取り組むのか。 また、自主防災組織活動で負傷した場合、保険対応等はどうなっているか。 |
| 防災安全課 | 自主防災組織設置数の目標値は、「%」表示ではなく設置数であり、107 ある行政区のうち、70 の行政区で組織することを目標としている。参考までに、現在の自主防災組織設置数は 62 団体である。 自主防災組織活動で負傷した場合の対応については、把握できていない。 |
| 稲村委員 | 同事業について、目標値を平成 31 年度に 70 としているが、変更はしないのか。 |
| 防災安全課 | 最終的には、100%達成を目指すべきと考えるが、平成 31 年度までとすることで段階的に設定したところであり、今回は改定しない。 |
| 武次会長 | それでは次に、基本目標 2 について議論する。 |
| 佐々木委員 | 資料 3 の 17 ページ、危険空き家指導について、具体的にどう指導、対処するのか。 |
| 都市政策課 | 現在は危険空き家の所有者に対して、適正管理するようお願いをしている状況である。 |
| 佐々木委員 | 適正管理するようお願いすることだけしかできないのか。 |
| 都市政策課 | 現状はお願いするのみである。所有者と連絡がとれた場合には、どう対処するか相談する。 |

| | |
|-------|--|
| 早見委員 | <p>同事業について、管理不全空き家の状況確認の方法及び判断方法を確認したい。</p> <p>また、判断基準は一般市民も閲覧することは可能か。</p> |
| 都市政策課 | <p>現在の調査方法は、水道部の保有している水道の閉栓データを活用し、県の手引きに沿って外観目視により判断している。</p> <p>また、判断基準は公表しているため、一般市民も確認できる状態である。</p> |
| 鈴木委員 | <p>資料2の No. 6に関して、デマンド型交通について方向性等が計画されているか。</p> <p>また、今年3月のダイヤ改正により、JR内房線の君津以南の直通本数が減った。先般、館山市、南房総市に在住の方が、復活に向けた署名活動の協力依頼に来たが、富津市としてどうするのか。</p> |
| 企画課 | <p>デマンド型交通については、市地域公共交通網形成計画を現在策定中であり、先般実施したアンケートを分析しているところである。このアンケート結果に基づき、市に合った計画を策定したい。</p> <p>今年3月のJR内房線のダイヤ改正によって、君津以南の昼間の直通列車の廃止があったのは事実である。JRの言い分としては、東京方面からの乗り継ぎが良くなったとのことだが、引き続き市長が先頭に立って、沿線自治体と共にJRに要望していきたい。</p> |
| 武次会長 | <p>JRは一度決めたらなかなか意見を変えないと認識しているが、実際はどうか。</p> |
| 企画課 | <p>JRからはダイヤ改正が決定された後に報告があるのが実際のところである。そのため、ダイヤ改正を決定する前に協議の場を設けるように市長を先頭に要望したところである。</p> |
| 岩沢副会長 | <p>市地域公共交通網形成計画について、学校再編に関連したスクールバスの運行計画も含めて検討しているか。</p> |
| 企画課 | <p>公共交通の利用者、担い手が減少している一方、通学手段としてのスクールバスも重要であると認識している。市地域公共交通網形成計画と市小・中学校再配置計画の計画期間も重複することから、相互に調整していきたい。</p> |
| 鈴木委員 | <p>資料3の12ページ、高速バス関連施設について、浅間山バスストップでの連絡交通網はどのような形で考えているか。</p> |
| 企画課 | <p>浅間山バスストップの二次交通についても、アンケート等を基に必要性、市民・事業者の意向からどのような手段が考えられるのかを公共交</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>通会議の場で検討していく。</p> |
| 鈴木委員 | <p>市外の利用客に対しての利便性については、どのようなニーズ調査を行っているか。</p> |
| 企画課 | <p>観光客のニーズの把握は難しいが、各種アンケート調査を行っているところである。</p> |
| 鈴木委員 | <p>アンケート結果によって、二次交通を設置しないこともありえるのか。</p> |
| 企画課 | <p>二次交通を公共で実施するのか、タクシー等他の手段もあるのか、どれが適切な手段か探って、現実としてベターな策を事業者と検討したい。</p> |
| 鈴木委員 | <p>高速バス利用者が上総湊でJRに乗り換えて来訪する人も少くない。 観光客は二次交通が無いと困る。観光の観点から、現状より不便になる形は避けていただきたい。これは要望である。</p> |
| 橋村委員 | <p>資料3の13ページ、広域連携による公共施設の共同化について、火葬場及び水道事業それぞれの統合によるメリットとデメリットは何か。</p> |
| 環境保全課 | <p>火葬場については、人口減少の中、将来においても質の高いサービスを安定して供給提供することを目的としており、4市で共同運営することにより、単独での施設整備、管理運営に比べスケールメリットにより負担軽減が図られることがメリットである。 デメリットは、現在は本郷にある火葬場が、木更津市まで行くことになるので、距離が遠くなることが考えられる。</p> |
| 業務課 | <p>水道事業については、水の安定供給、職員の退職による技術の継承、人口減少による料金収入の減少等の課題解決に向け、4市と君津広域水道企業団の併せて5団体を統合するものである。 統合によって、国の補助金の活用が可能であり、将来的に水道料金を低く抑えられることがメリットである。 デメリットは、事務所が木更津市になるため、遠くなることが考えられる。</p> |
| 神田委員 | <p>資料3の13ページについて、都市計画マスタープランとは、そもそもどういったものか。また、都市機能と地域資源がバランスよく配置されるまちづくりとは、どのように考えているか。</p> |
| 都市政策課 | <p>都市計画マスタープランとは、市が定める都市計画について土地利用の基本的な方針を定めるものである。 平成10年3月に策定した都市計画マスタープランは、平成27年度の人口目標を12万人としたものであったため、人口ビジョンに沿った計画</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>に見直したところである。</p> <p>富津地区は一定程度都市機能が集約していることから、引き続き賑わいと活気に満ちた地域、金谷等の南部地域は豊かな自然に包まれゆったりとした暮らしのできる交流の活発な地域といったように、富津、大貫・吉野、佐貫・湊、南部と4つの地域に分けて、それぞれに目標を立てている。</p> |
| 神田委員 | <p>富津市は多様な土地柄があり、バランスが良い。富津市の魅力はそこにあると思っている。市内を循環バス等で網羅できると観光として行きやすい。鋸山の客を大貫、富津の方まで運べるような形に結びつけるような土地利用を考えてほしい。これは要望である。</p> |
| 武次会長 | <p>ここで休憩を挟み、基本目標3の議論に移る。</p> <p>(休憩)</p> |
| 武次会長 | <p>会議を再開し、基本目標3について議論する。</p> |
| 岩沢副会長 | <p>教育環境の関係で、統廃合について立地は大切である。場所は決まっているようだが、スクールバスでも触れたように、いろいろな観点で考えてみてほしい。</p> |
| 教育総務課 | <p>天羽中学校は既存の体育館や武道場を計画的に改修してきた。背景は大規模改修をする予定だったが、調査で構造体が劣化しているため建替えとなった。それを含め事業を進めている。</p> |
| 岩沢副会長 | <p>教育部の考え方はわかる。市全体として考えていってほしい。</p> |
| 永田委員 | <p>会議資料に記載があるわけではないが、工業に関して、天羽高校に電気科、機械科を新設して、市の工業地帯に対応するような話があったがどういった状況か。</p> |
| 市長 | <p>市の工業地帯に進出企業が数多く立地しており、そこに多くの雇用があるのは認識している。しかし、地元の子どもたちが全国の子どもたちと同じ土俵に立って採用試験を受けられているのか心配していたところである。</p> <p>工業高校を卒業した地方の子どもたちが多く勤めているという実態がある中、地元の子どもたちは不利な状況で就職の競争を戦っていると感じている。</p> <p>そうしたことから、県の教育委員会に対して、市だけでなく天羽高校校長、同窓会の方々、地区の方々とともに、今の時代の進出企業のニーズにあった学力、技術を身に付けられる学科コースを天羽高校に設置するよう働きかけていきたい。</p> <p>また、地元企業からも地元の人材雇用について理解を得られており、</p> |

| | |
|--------|---|
| | 県に対してともに働きかけていきたい。 |
| 永田委員 | 企業としては、最初から知識を持った人を採用するのがベターと考える。そういったことに対応するため、基礎知識を持った人材を育てられるよう市内の高校への工業科設置を進めてほしい。 |
| 稲村委員 | 資料3の19ページ、赤ちゃん休憩室事業とブックスタート事業について、事業内容を確認したい。 |
| 子育て支援課 | 赤ちゃん休憩室事業は、不特定多数が利用する施設において、授乳、オムツ替えの設備を整備促進することにより、乳幼児を持つ親が安心して出かけられることを目的とした事業である。 設備を整備した事業者への補助による整備促進を考えており、事業者には、認定ステッカーを貼ってもらい、市のホームページ等で周知を図っていきたい。 |
| 生涯学習課 | ブックスタート事業は、新生児に対し、4ヶ月児健診時にボランティアによる本の読み聞かせを行うことで、親子のコミュニケーションを図ることを目的とした事業である。 また、今年度4月以降に出生した子どもには、9月の健診から絵本を配布する。 実際に読み聞かせを実施したところ、新生児が本を凝視したり、読んでいる人に反応したりと興味を持っている様子が確認できている。 |
| 神田委員 | 子育て何でも聴きます窓口の設置は嬉しく思っている。この窓口はワンストップ対応しているのか。 |
| 子育て支援課 | 今年度から窓口を一本化し、窓口に来た人が移動せずに、関係課の担当者が子育て支援課へ来て対応している。また、窓口一本化に加え、4月から相談室やブースを設け、事業を実施している。 |
| 神田委員 | 資料3の21ページ、ふるさと育英資金事業について、事業内容を確認したい。 |
| 教育総務課 | 育英資金については、高校生、大学生、専門学生に対して現在も制度を設けている。総合戦略に掲げた事業については、現行制度に加えて、富津市への帰郷を促すことを目的にしており、卒業後、富津市に一定期間住民登録した人に対し、貸し付けた育英資金を減免、免除する制度を考えている。現在は条例整備に向けて準備中である。 |
| 神田委員 | この制度は進学者に対しての減免、免除ということか。 |
| 教育総務課 | 就学に対しての制度である。 |

| | |
|-------|---|
| 神田委員 | 就職希望の学生に対し、市内就職者に手当支給する市町村があるが、富津市は考えているか。 |
| 企画課 | 市内企業に就職したときのインセンティブについては、今後検討したい。 |
| 武次会長 | それでは次に、基本目標4について議論する。 |
| 小泉委員 | 資料2のNo.7大堀バスターミナルについて、どういった状況か。 |
| 市長 | 資料2に記載のとおり、市地域公共交通網形成計画において検討していきたい。 |
| 小泉委員 | 早期整備をお願いしたい。 資料3の24ページ、ノリ共同利用施設整備事業について、市の補助額を確認したい。 |
| 農林水産課 | 昨年度までの富津漁業協同組合の施設整備については、市は10万円の補助をしている。 |
| 小泉委員 | 数億かかる施設で市の補助が10万円というのは少ない。 また、地元産品の直売所について早期設置をお願いしたい。 |
| 鈴木委員 | 市長公約で鋸山を取り上げていただいたのは嬉しいことである。 鋸山の他に、第一海堡も活用してもらいたい。 |
| 生涯学習課 | 鋸山については、来年度に文献等資料を調査していく。また、有識者を交えた検討会にもっていききたい。 |
| 鈴木委員 | 鋸山に関しては、測量調査結果等の提供できる資料もあるので協力したい。 もう1点、富津産品のブランド化について、農業で木更津市と鴨川市で有機農法を市のブランドにしようという動きがあり、鴨川市では大規模農場に市の関係者を派遣し、農法を習得させている。富津市はこの点についての考えはどうか。 |
| 農林水産課 | 近隣市の有機農法の取組は認識している。有機農法は高い技術を要するので、有機農法をやりたいという農業者には支援していきたい。 |
| 橋村委員 | 資料3の23ページ、雇用ニーズの把握とあるが、具体策はあるか。 |
| 商工観光課 | 各企業のニーズは把握できていない。労働基準監督署、ハローワーク、新富工場協議会等と連携し、地元企業のニーズを把握し、奨励制度等へ反映していきたい。 |

| | |
|-------|--|
| 早見委員 | 資料3の23ページ、創業支援について、過去の創業実績等から目標設定したのか。 |
| 商工観光課 | 創業支援事業については、今年度から開始したため過去の実績資料は無い。昨年度策定した創業支援計画において、4つの事業に掲げた目標値の合計を5件としている。 |
| 武次会長 | 以上をもって議題（1）を終了する。 事務局から何かあるか。 |
| 事務局 | 本日の意見等を受け、各事業担当課と修正及び調整のうえ、改定案を9月中に委員へ送付し、パブリックコメントを経て、次回会議に諮る予定である。 |
| 武次会長 | 議題（2）総合戦略の平成28年度事業実績について 続いて、議題（2）について議論する。 本議題については、既に終了した事業であるので、各事業についてこういったやり方の方が良かったというような観点で考えていただきたい。 |
| 岩沢副会長 | 資料4の45ページ、宿泊・滞在型観光促進事業について、この事業での観光客数の比率等のデータがあれば確認したい。 |
| 商工観光課 | 観光客入込数については、宿泊・滞在型観光促進事業によって、どれだけの人数の入込があったかまでは把握できていない。 参考に宿泊・滞在型観光促進事業の内容については、各種イベントの開催、旅行エージェントやメディア関係者等を対象とした現地視察の実施等によってPRを図っている。 |
| 岩沢副会長 | 承知した。人口流入に繋がることもあるので、活発に観光促進してもらいたい。 |
| 小泉委員 | 農業は担い手が減っており、体験型、滞在型の漁業農業を観光も含めて検討してほしい。 また、県では海苔のオーナー制度が始まったようなので、富津市でも検討してほしい。 |
| 農林水産課 | 県の漁連とも情報共有しながら、各漁協と連携していきたい。 |
| 佐々木委員 | 資料4の4ページ、区長関係費について、地域によって区の役員への報酬の支払等についてばらつきがある。市としては、各区へ運営、報酬等は委ねているということか。 |

| | |
|-------|---|
| 市民課 | 区長報酬の他、自治振興交付金を区へ交付しており、区の考え方、判断に委ねている。 |
| 坂田委員 | 資料4の1ページ、文化財保護について、市所有以外の古墳の管理について、市はどの程度関与しているのか。 |
| 生涯学習課 | 市所有以外の文化財については、基本的に所有者管理としている。 |
| 坂田委員 | 古墳に繁茂している木の伐採等の適正な管理を市から勧告等はできないのか。 |
| 生涯学習課 | 文化財の管理という点では、所有者にお任せしている。 |
| 環境保全課 | 環境保全という点で、富津市まちをきれいにする条例に関連した指導は可能である。 |
| 岩沢副会長 | 資料4の29ページ、農作物被害対策事業について、農作物被害額に家庭菜園の野菜等は含んでいるのか。また、各対策の効果はどうか。もう1点、鳥獣が土手を荒らすこと等の農作物以外への対策はどうしているか。 |
| 農林水産課 | <p>農作物被害額は各区長に報告してもらい、把握している。軽微な被害でも報告をお願いしているが、煩雑な様式のため被害額を報告しない場合や作付けしなくなったため被害が出ていないという場合もある。被害自体は増加傾向にあるため、報告様式等を工夫して、うまく反映できるよう改善したい。</p> <p>鳥獣の個体数については、県で推計値を公表しているが、調査方法を検証していくとのこと。サルの捕獲数は横ばいだが、イノシシとシカの捕獲数は増加傾向にあるので、個体数も増えているのではないかと推察している。</p> <p>農作物以外の被害があるのは事実だが、現状は農作物被害対策に注力している。環境的な被害対策は広域的な対策が必要なことから、県に要望している。生活環境被害対策マニュアルを県が作成することとなっているので、それを活用しながら市でも対策を検討したい。</p> |
| 鈴木委員 | 資料4の39ページ、ふるさとふつつ応援寄附について、今までは返礼率や商品の魅力で引きつけていたところもあると思うが、今後寄附額5億円に向け、課題解決、明確な使い道をはっきりさせて寄附をお願いするというのもよいと思うが、どう考えるか。 |
| 企画課 | ふるさとふつつ応援寄附については、昨年度、返礼率5割で寄附金額2億6千万円を達成したが、一般的にふるさと納税は返礼品目的の寄附が多いというのが実際のところである。 |

| | |
|------|---|
| | <p>寄附金の使途については、昨年度も公表し、今年度も公表を予定している。クラウドファンディングのような方法もあるが、寄附金が集まらなかった場合にどうするのかという課題もあるため、本当に必要不可欠な事業に寄附してもらえようような着実な方法を検討していきたい。</p> |
| 武次会長 | <p>以上をもって議題（２）を終了する。 事務局から何かあるか。</p> |
| 事務局 | <p>特に無し。</p> |
| 武次会長 | <p>議題（３） その他 続いて、議題（３）その他について事務局から何かあるか。</p> |
| 事務局 | <p>特に無し。</p> |
| 武次会長 | <p>それでは、以上をもって平成 29 年度第 1 回富津市創生会議を終了する。 最後に、市から何かあるか。</p> |
| 副市長 | <p>総合戦略については、市の最重要施策と捉えて着実に実行していきたいと考えているので、今後とも委員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願ひしたい。</p> <p>(終了時刻 午前 11 時 50 分)</p> |

以上